

北京で中国社会科学院と 共同研究シンポジウム

社会科学研究所



社会科学研究所(柴田弘捷所長)は、中国社会科学院・都市発展と環境研究センター(牛風瑞主任)と国際シンポジウムを開催した=写真。このシンポジウムは、社会科学研究所が推進している変貌激しい中国社会をトータルに把握するための国際的な研究・調査協力事業である「中国社会研究プロジェクト」の一環である。

社会科学研究所の一行27人(柴田団長、村上俊介事務局長)が3月13日から18日にかけて北京に滞在、14、15の2日間、中国社会科学院でシンポジウムを行った。全体テーマは「中国の社会経済の均衡発展」。日本側から5人の所員(町田俊彦「中国の中央・地方の財政関係ー中国と日本ー」、大矢根淳「北京胡同・四合院のリノベーション」、大橋英夫「中国経済のグローバル化」、張浩川「中国中小企業の国際化」、佐島直子「中国の戦略文化」)が報告、中国側からは8人の報告(「現代中国における社会階層構造の変化と傾向」、「中国の都市再開発の現状と政策」、「中国人口の高齢化と社会保障」、「中国のコミュニティ類型と近隣関係の特質」、「中国の三農問題の解決と都市化」、「中国経済のグローバル化と世界経済への影響」、「中国の産業構造の変化の歴史と現実」、「現代中国における就業状態と労働人口の変化の傾向」)があった。

60人近くの参加者を交えて中国の社会、経済、政治など幅広い分野において熱心な討議が繰り広げられた。16、17両日には、都市再開発の現状、中国の企業立地、日系企業の活動等の現地聴き取り調査が行われ、中国の現状に関する多くの知見を得ることができた。

また、16日の夕刻から、日本学研究中心(北京大学・北京外国語大学大学院)において、吉田雅明、金子洋之、嶋根克己の3所員による「複雑系社会理論」についての講演が行われ、同大学院生4人が研究報告する研究交流セミナーも開催された(双方で40人参加)。このような科学的研究の交流を深化させていくことによって、日中双方がお互いを良く知り、日中友好の実現が期待される。(柴田弘捷)

平成17年度校友会定時総会

校友会の「平成17年度定時総会 専修人の集い」が6月18日(土)、東京都千代田区の「ホテルニューオータニ東京 芙蓉の間」で開催される。14時開会(受付開始は13時30分)で、会費は1万円(家族・同伴者は5000円、子供無料)。

総会後の懇親会には、本学相撲部出身の藤島親方(元大関武双山)、校友で幕内昇進を果たした片山関らの出席を予定しているほか、ナポレオンズがマジックで、やまもときょうさんがジャズボーカルで華を添える。

申し込み、問い合わせは校友会事務局(TEL03・3265・7579、FAX03・3265・7089)まで。

※会場の最寄駅は、地下鉄「永田町駅」「赤坂見附駅」「麹町駅」、JR・地下鉄「四ツ谷駅」。

また、代議員会は5月28日(土)15時より神田校舎303教室。

専大校友を訪ねて

カーリング一筋28年
世界シニア選手権出場

朝川 悟 さん

(昭46北短農業経営科)



北海道の中川郡池田町でカーリングに人生の夢を託したOBがいる。専修大学北海道短大2期生の朝川さんは当時を振り返りながら、「私がこのスポーツを始めたのは、1977年(昭52)に池田町がカナダのペンティクトン市と姉妹提携し、当時のカナダ大使館の方が町民に指導してくれたのがキッカケです」。

「翌78年(昭53)、町の広報で参加を呼びかけた『第1回冬まつり』では、カーリングを目玉に、町内11チーム(1チーム4人)が出場して大いに盛り上がりました。ルールもあいまいで、長靴に箒(ほうき)というスタイルでしたが結構、楽しめました」と言う。

チーム名は早口言葉の『あかばじゃま』という名称にしたのを、国際競技だからと『レッドパジャマ』に変えたという。

チームは84年(昭59)の第1回日本選手権で念願の初優勝を果たした。そして苦節21年、2005年(平17)第2回日本シニア選手権(50歳以上の部)で初優勝、3月に19カ国19チームが参加し、スコットランドのハウウッドで開かれた世界シニア選手権に出場した。結果はBグループ(10カ国)予選で4勝5敗の7位。

チーム結成から現在までの試合数は何と899回。「このスポーツに年齢は関係ありません。一般の部でもシニアの部でも、まだまだやりますよ」と意気が上がる。奥さんのさよさんもカーリングの選手で、国際大会の出場経験を持つ頼もしい味方だ。

朝川さんは、100ヘクタールの山林で肉牛97頭を飼い、40ヘクタールの畑地で甜菜、小麦、小豆などを栽培しており、平成15年度北海道指導農業士の認定を受けた篤農家でもある。

北海道短大の感想を尋ねると「長男がやはり短大の造園科を卒業し、道路関連の仕事に就いています。短大は昔も今も、教職員と学生に家族のような親近感があり、安心して勉強できるのが本当に素晴らしいですね」と語ってくれた。

『専修大学125年』刊行

大学の歴史を写真で紹介しています。

新入生にはガイダンスで配布しましたが、2年次以上の在学生については下記により希望者に配布します。学外の方で頒布希望の方は大学史資料課までお問合せください。

<生田校舎>

5月24日(火)から27日(金) 14:30-17:00 9号館1階エントランスホール

<神田校舎>

6月1日(水)から3日(金) 16:00-18:00 1号館地下学生ホール

大学史資料課

TEL 03-3265-5879 メール archives@acc.senshu-u.ac.jp

